

体育科学習指導案

1 単元名 「パイレーツ・オブ・くすのき」 (多様な動きをつくる運動遊び)

2 単元について

(1) 単元観

多様な動きをつくる運動は、体のバランスをとったり移動したりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動を通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることをねらいとして行う運動である。多様な動きをつくる運動は(ア)体のバランスをとる運動(イ)体を移動する運動(ウ)用具を操作する運動(エ)力試しの運動(オ)基本的な動きを組み合わせる運動の5つで構成される。手や足をはじめとする多くの運動器官を動かしながら、これらの基本的な動きを習得することができるようにする運動である。

(2) 児童観

生活面や学習面、運動面、コミュニケーション面において、一人一人の能力差が大きく、必要に応じて個別の課題を設定して支援を行っている。児童の中でも、通常学級から転級した児童の多くが、自分に自信がもてないでいる。自己肯定感をもてるような指導や支援が必要である。昼休み等は外で活動することが多いが、遊びの内容は鬼ごっこが多く、バリエーションは少ない。放課後も友達を誘って外で活動する児童は少ない。しかし、体を動かすことが好きな児童は多く、体育の授業は熱心に取り組んでいる。児童の多くは運動経験が少なく、筋力が低かったり、動きがぎこちなかったりする。また、集中が続かず、すぐに飽きてしまう児童もいる。時に相手の気持ちを考えず、身勝手な言動をしてしまう児童もいる。そこで、楽しく運動に取り組めるような場を用意し、多様な動きを身に付けられるようにしていきたい。また、学習する上での基本的なルール、マナーを身に付けさせ、かつ、コミュニケーション能力の向上を図りたい。

本学級児童は学年が異なる上に、個々の運動技能の差も大きい。基本的には全員が共通の場で運動をするが、高さや回数を変えたり、場合によっては少し場を変えたりするなどの、個別の課題の設定が必要となる。

個別の課題の設定に際しては、まず実態調査として、2016年川又研究チームによる学習習得度表を使用する。個別の課題を明確にした上で、支援のための手立てを考え、指導する。

※<児童の実態>は省略

(3) 指導観

本学級は異学年の少人数集団であり、特に低学年児童は集中が続かないことが多い。そこで、単元をストーリー化したり、様々な場を用意したりするなど、児童の集中が続くような手だてが必要となると考えた。また、相手を思いやる、協力するなどのコミュニケーション能力を養う上では、意図的にこの7人で関わり合いの場を設けることも重要と考える。

単元構成の工夫

- 本学級は冒険物語が好きな児童が多い。そこで、単元を通して「パイレーツ・オブ・くすの木」の一員になって冒険をするというストーリーを設定する。活動の場を冒険の際に起こる数々の困難と見立て、課題を解決すると宝がもらえるという活動を繰り返していく。場をサーキットにすることで、児童が運動に夢中になって取り組めると考える。
- 集中を続けることが難しい児童の実態があることから、毎時間1単位時間でめあて①「わくわくタイム」、めあて②「チャレンジタイム」を設定し、スパイラル型で運動する。「わくわくタイム」では、自分の好きな動き方で楽しみながらサーキットに取り組む。「チャレンジタイム」では、自分のもう少しでできそうな場を中心に取り組む。単元の後半には、一人一人が自分のめあてに合わせて用具を動かすなど、場に変化を加えることができるようにしていきたい。

場の設定の工夫

- A・B児とC・D・E・F・G児の実態の差が大きい。しかし、本単元では児童相互の関わり合いも大切にしたいと考える。そこで、活動の場をサーキットにして、同じ場でも楽しめるようにしたい。「ジャンプゾーン」「わたーるゾーン」「へんしんゾーン」「のぼーるゾーン」の4つのゾーンに分けることで、自分が好きな動き、得意な動きや、苦手な動きを認識できるようにする。回数や高さ、課題を変えるなど、難易度を変え、個に応じた課題を設定することで、同じ場であっても運動に取り組めると考える。また、全て同じコースではなく、途中で課題別のコースを用意することで、どの子も無理なく、楽しく運動に取り組めるようにする。

指導形態の工夫

- 指導形態はTT形式とする。基本的にT1が授業を進め、T2が補助していく。教師間で、毎時間児童の実態を確認する。特に担当する児童を決めず、二人で全員を見るという視点をもって指導にあたるが、場の分担は行う。(配置図参照)

教材の工夫 (一部)

- くすの木ボックス



牛乳パックで作った丈夫な箱。これを持って平均台を渡ったり、この上を渡り歩くことでバランス感覚を身に着けたり、積んでボール投げの的にすることで巧緻性を養ったりと、様々な目的で使用することが可能である。

- モンスターターゲット



これを並べてまたぎ越す障害物とすることで、リズム感を養ったり、ボール投げの的にしたりすることで巧緻性を養ったりすることができる。子どもたちがデザインしたオリジナルモンスターのイラストを貼ることで、意欲を喚起することができる。

- 変身カード



多様な動き（「アザラシ、クマ歩き、ぐるぐるぐるま、腕立てぐるぐる」など）の書かれたカードをめくり、マットの上でその動きをする。イラストも描いておくことで、どの子も取り組めると考えた。めくるまで何が出るかわからない楽しさがある。

○おたからジャンプ



吊るされたお宝メダルを取る。メダルの高さを変えることで、どの子も挑戦することができ、意欲をもって取り組めると考えた。ゲットした宝をボードに貼ることで、周回数も分かるようになっている。

○じごくの谷



ステージに乗るための補助具として、ロイター板、階段を用意しておく。ステージから勢いよく飛び降りることができるように、セーフティーマットと目標のラインを用意しておく。

○お宝マップ（学習カード裏面）



毎時間学習の終了後に宝の地図の切れ端を渡していく。これが次回の学習カードにもなる。すべて集めると宝が手に入るという設定にすることで、次時への意欲を喚起できると考える。

評価の工夫

- 短期記憶が弱い児童が多いので、教師が授業の中で適宜評価をしていくことを基本とする。また、チャレンジタイムでペアを組むことで、他者評価を行うことができるようにする。
- サーキットを1周する度に「お宝」を1つもらえるようにすることで、児童は意欲的に繰り返して運動に取り組むことができるだろう。また、学習カードに手に入れたお宝の数を記録することで、自分の伸びを実感することができるだろう。
- 1時間の活動の様子をデジカメ等で記録し、翌日の日常生活の指導の時間に自分の運動を振り返る。学習カードの反省と次の時間のめあての記入は体育の時間外とすることで、体育の時間内の運動量を確保できると考える。

3 単元の目標

- めあてを達成するために、意欲的に取り組んでいる。【関心・意欲・態度】
- 自分に合っためあての場を見つけている。【思考・判断】
- 多様な動きをつくる運動（遊び）ができる。【技能】

4 指導計画（10時間扱い）

	1	2	3	4	5	6	7本時	8	9	10
0 ↓ 4 5	○オリエンテーション 学習内容を知る。	○体ほぐしの運動 ○場の準備をする。 めあて①わくわくタイム 自分の好きな動き方でサーキット運動を楽しむ。 めあて②チャレンジタイム 自分のもう少しでできそうな場を中心に挑戦する。 ○場の片づけをする。 ○学習のまとめをする。							○体ほぐしの運動 ○場の準備をする。 ○自分たちで考えたサーキットの場で楽しむ。 ○場の片づけをする。 ○学習のまとめをする。	

5 本時の指導（7/10）

個別目標

	本時の目標	手だて
6年 A	○投げ上げたボールを落とさないように、まわってから捕ることができる。	○前転が始まるポイントと終るポイントをテープで示しておき、前転が終るポイントにボールを投げるように意識させる。
5年 B	○投げ上げたボールを落とさないように、まわってから捕ることができる。2回連続でできる。	○「2回連続でできたら、プラチナメダルだよ。」という声掛けをし、意欲をもたせる。
4年 C	○ステージから前方に跳び、セーフティーマットの上で安全に着地できる。	○手や頭がマットにつかないことが安全であることをはじめに約束してから運動させる。
3年 D	○メダルを取るために何度も繰り返し上方に跳ぶことができる。	○大きく跳べる跳び方や、取りやすい手の使い方を個別に指導する。
2年 E	○友達と協力して用具の準備や片づけをしようとしている。 ○ステージから前方に跳び、セーフティーマットの上で安全に着地できる。	○片付けの役割を予め決めておくことで、自分がやるべきことを意識できるようにする。 ○手や頭がマットにつかないことが安全であることをはじめに約束してから運動させる。
1年 F	○友達と協力して用具の準備や片づけをしようとしている。 ○ケンステップで自作コースを作り、様々な跳び方に挑戦することができる。	○片付けの役割を予め決めておくことで、自分がやるべきことを意識できるようにする。 ○跳び方のリズムをロズさむことで、調子よく跳べるようにする。
1年 G	○登り綱を黄色のラインまで縦移動することができる。	○教師の補助で登りやすい登り方を見つけさせる。「スーパー1年生だよ。」という声掛けをし、意欲を高める。

本時の展開 (7/10)

時配	学習活動	教師の指導・支援の方法 (○) と評価 (●)	教材・教具
1分 3分	1 整列、挨拶をする。 2 体ほぐしの運動をする。 ・二人組の運動 観覧車	○「気をつけ」の姿勢を意識させる声掛けをする。 ○手だけでなく、体全体を使うために、友達と目を合わせることを伝える。(T1) ○体を上下する動きが難しい児童には補助をする。(T1、T2)	学習ボード
6分	3 場の準備をする。	○重いものを高学年児童とT1、軽いものを低学年児童とT2で分担して運ぶ。 ○置き方がわかるように、テープで印をつけておく。 ●友達と協力して用具の準備や片づけをしようとしている。(2年E、1年F)	CD
15分	4 多様な動きをつくる運動(遊び)を行う。		
	めあて① 自分の好きな動き方でサーキット運動を楽しむ。		
	「わくわくタイム」 ・おたからジャンプ ・じごくの谷 ・ケンステップ ・ジグザクコーン ・くすの木ボックス ・一本橋 ・肋木 ・登り綱 ・モンスターターゲット ・変身ゾーン ・ケンステップ	○児童の動きにリズムをもたせる声掛けや支援をする。 ・ケンステップでリズムの声掛け。 ・座位での移動で「手、足、手、足」等。 ○手や頭がマットにつかないことが安全であることをはじめに約束してから運動させる。(4年C、2年E)	メダル ロイター板 ケンステップ コーン くすの木ボックス クス 平均台 マット 踏切板 登り綱 モンスターボックス 変身カード 学習ボード (掲示用)
1分	5 めあての確認をする。	○各自のめあてを確認し、見通しを持たせる。	
10分	6 多様な動きをつくる運動(遊び)を行う。		
	めあて② 自分のもう少しでできそうな場を中心に挑戦する。		
	・おたからジャンプ ・じごくの谷 ・変身ゾーン ・登り綱 ・ケンステップ	○前転が始まるポイントと終るポイントをテープで示しておき、前転が終るポイントにボールを投げるように意識させる。(6年A) ○「2回連続でできたら、プラチナメダルだよ。」という声掛けをし、意欲をもたせる。(5年B) ○手や頭がマットにつかないことが安全であることをはじめに約束してから運動させる。(4年C、2年E) ○大きく跳べる跳び方や、取りやすい手の使い方を個別に指導する。(3年D) ○跳び方のリズムをロずさむことで、調子よく跳べるようにする。(1年F)	

<p>6分</p> <p>2分</p> <p>1分</p>	<p>7 場の片づけをする。</p> <p>8 学習のまとめをする。</p> <p>9 挨拶をする。</p>	<p>○教師の補助で登りやすい登り方を見つけさせる。「スパー1年生だよ。」という声掛けをし、意欲を高める。(1年G)</p> <p>●投げ上げたボールを落とさないように、まわってから捕ることができる。(6年A)</p> <p>●投げ上げたボールを落とさないように、まわってから捕ることができる。2回連続でできる。(5年B)</p> <p>●ステージから前方に跳び、セーフティーマットの上で安全に着地できる。(4年C、2年E)</p> <p>●メダルを取るために何度も繰り返し上方に跳ぶことができる。(3年D)</p> <p>●ケNSTEPで自作コースを作り、様々な跳び方に挑戦することができる。(1年F)</p> <p>●登り綱を黄色のラインまで縦移動することができる。(1年G)</p> <p>○重いものを高学年児童とT1、軽いものを低学年児童とT2で分担して運ぶ。</p> <p>○楽しく活動できたか、体をたくさん動かせたか、友達と協力できたかを確認する。</p> <p>○「気をつけ」の姿勢を意識させる声掛けをする。</p>	
-------------------------------	--	---	--

(イ) 配置図



High グループのコース



Low グループのコース

